

2021 年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究者育成費
研究成果報告書

研究題目：SDGs 版自治体計画策定モデルの立案

所属・学年：政策・メディア研究科 博士課程 3 年

氏名：森田 晃世

【研究概要】

自治体の約 40%が SDGs に取り組んでおり、2018 年の内閣府 SDGs 未来都市モデル事業（以下、未来都市）開始以降、SDGs の認知度の上昇や施策の増加は見られ、自治体の SDGs への取り組み状況実態調査や個別の事例研究は進んでいる。一方で、自治体経営の観点より、計画策定に SDGs を導入する自治体の特徴、SDGs 版計画策定の手法の分析を含む体系的な計画策定モデルに関する研究はない。本研究では、未来都市に応募した 189 自治体を対象に、公開資料である未来都市提案書と各自治体計画を対象にした定量的調査と、本研究の調査項目に関する追加定量的調査（質問票送付）及び定性的調査（インタビュー）により、SDGs 版自治体計画策定モデルの立案を行う。

【研究報告と今後の展望】

本年度は以下のリサーチクエッション（RQ）に沿って、研究を実施した

RQ1：自治体 SDGs の取り組み度を測る発展的指標は何か。その指標を達成するために必要な要素は何か

→（研究結果）2018 から 2020 年度の 3 年間で未来都市に応募した 189 自治体の内、未来都市に認定された 93 の自治体と認定されなかった 95 の自治体の計画策定の取組状況について、公開されている自治体計画をもとに、テキストマイニングツールを活用した定量分析を行った。その結果、未来都市に認定された自治体と認定されていない自治体よりも、認定された自治体間での各種計画策定とのキーワードの一致に関して差異がみられ、今後は 2021 年度分の自治体も対象として、その関連度及び要因を分析していきたい。

RQ2: SDGs 版計画策定に取り組みやすい自治体の特徴は何か

→（研究結果）未来都市に認定された 93 自治体を対象に、①SDGs に取り組み始めた動機と、②その動機に関連する自治体計画には「SDGs」というキーワードが言及されているか。③動機の種類によって計画策定への取り組み状況について、提案書や各自治体の SDGs に関する HP をもとに定量的調査を行った。その結果、未来都市計画の本文に同期に関する記載が含まれている計画は少なく、未来都市に採択された自治体から発行している広報誌、首長や自治体職員へのインタビューで動機について言及している資料が多く、その内容は環

環境未来都市に採択された自治体が SDG s 未来都市にも関心を示した事例が多かった。環境分野以外の社会、経済分野に注力している自治体の動機については、定性調査も含めて今後の課題として研究していきたい。

RQ3:SDGs 版自治体計画を策定する手法は何か

→ (研究結果) 未来都市に認定された 93 自治体を対象に、自治体の提案書をもとに、未来都市に認定された自治体計画では SDGs のどのような特徴の取り入れや手法をもって SDGs 版とみなしているかについて、提案書や各自治体の SDGs に関する HP をもとに定量調査を計画していたが、RQ2 の動機に関する記載同様に、手法について言及していた自治体計画が少なく、また環境・経済・社会の 3 分野それぞれの個別課題だけでなく、SDGs のコンセプト等 (①政策目標の 17 ゴールとの関連付け、②政策実施計画に関するバックキャストの視点の取り入れ、③政策対象が「誰一人取り残さない」という包括的な視点、④KPI に SDGs の指標を採用、⑤政策策定過程にて、ゴール 17 のパートナーシップの観点から住民参画のプロセスを取り入れているかなど) を網羅的に明確に反映している自治体計画は数事例に留まった。今後は RQ2 と合わせて、各自治体への個別インタビューによる本 RQ の研究を続けていきたい。

【謝辞】

森泰吉郎記念研究振興基金に採択していただき、本研究を円滑に進めることができました。この場を借りて感謝申し上げます。